

## 鈴木先生、ペアレニツキャンプの皆様

寒い日が続いていきがちが、いかがお過ごしでしょうか？

この度、二年半に渡る家庭教育支援コースを卒業致しました。担当して頂いた鈴木先生には大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。毎週電話カウンセリングで話を聞いて頂いていたので、今ではバのとりどころがなくなっていて、寂しく思います。

思い起こせば、息子は幼稚園の頃から母子依存の傾向があり、朝バスの見送りの時も泣いていることが多かったです。かんしゃくも酷く、その頃から対応に悩んでいました。小学校に入学しても慣れるまでは寂しくなっていて、涙あふれることもあったようでした。それでも学校を休むことはなく、なんとか一年生を終え、二年生に進級しました。

そして、息子の行き渋りは、二年生のゴールデンウィーク後から始まりました。

「給食が嫌だ。」「学校に行きたくない。」「明日は行くから今日だけ休ませろ。」

突然始まりました。そういえば、一年生の三学期の給食中クラスメイトが嘔吐したことが原因で食が細くなっていました。再び、クラスメイトが嘔吐したのを見て、不安が大きくなり、学校に行くことが怖くなってしまったようです。

それからは毎朝、「学校が嫌だ。」と泣き叫び、嫌がる息子を車に乗せ、無理やり学校に連れて行きました。先生からは、学校では楽しそうにしていると聞いていましたが、学校から帰宅しても「学校に行きたくない。」と大泣きし、学校を休む回数も増えました。それでも車で送迎することで、週に数回休みながらも、学校に連れて行きました。

学校に行っても嘔吐の恐怖で集団の中で給食を食べることができず、息子が安心して給食を食べられるならと個室を借り、二歳の妹を連れて給食の付き添いをしました。それからは、登下校、給食の時間と一日三回学校まで車で往復しました。二歳の子供を連れて、一日何度も送迎するのは、なかなか大変なもので、私の心と体は疲れ果ててしまいました。

自分の子供がこんなことになるなんて…正直、幼稚園の頃から行き渋りがあったので、心のどこかでは、いつか「学校に行きたくない。」と言い出すのではないかと考えていました。それでもやはり大きなショックでした。インターネットや本で不登校に関するものを読みあさると息子の性格(神経質、心配性、我慢できない、母子依存など)は、不登校になりやすい傾向に当てはまっていた。

それに加え、知らず知らずのうちに過干渉、過保護の子育てをしてきたので、それが息子の自立心を妨げていたなんて、思いもよりませんでした。

私の育て方がいけないのかもかもしれない。胸が苦しくてたまりませんでした。

そんな時、ペアレンツキャニオのホームページを見つけました。取り返しがつかないと思っていた子育てもまたやり直し方法があるかもしれないと希望が湧いてきました。

それでも悩み、休みながらも学校には通っていることを言い訳に支援を受ける勇気がありませんでした。

その間、心療内科、スクールカウンセラーの先生にも相談しましたが具体的な対処方法がある訳でもなく、ただ時間が過ぎていくだけでした。

そして、三年生になり、給食の付き添いだけはやめることにしました。なんとか、みんなと同じ教室で給食を口にすることはできましたが、相変わらず食は細いまでした。しばらくして、またしても行き渋りが始まりました。

心療内科の先生に相談したところ、一週間ほど学校を休ませることを提案されました。一週間学校を休ませたことで、更に学校に行きたくない気持ちが大きくなり、行き渋りが酷くなりました。大きな声で泣き叫び、暴れ、家を出発する時も逃げ

回る息子を追いかけ、引、張、て学校に連れて行きました。  
私が無理やり力づくで学校に連れて行くだけで、もの  
すごく体力を奪われました。

今は、学校に無理して行かなくてもよいという考えもあり  
ますが、私はそこまですてもやはり学校という場所で  
友達と一緒に学んで集団の中で成長してほしいが、たのでも。  
バ療内科では薬による治療を進められ、スクールカウンセ  
ラーの先生には少人数の適応教室を進められましたが  
受け入れることができず、またしても途方に暮れるばかり  
でした。

もうこれ以上は自分でどうあることもできない。意を決して  
ペアレンツキャンプの支援を受けることにしました。

支援を受けた当初は、息子にどのように声をかければ  
よいか言葉を選びすぎて戸惑うこともありました。  
家庭1対1の添削、電話カウンセリングを重ねることで、  
PCMの基本的な考えを学び、そして息子に合った対応  
策を丁寧に的確に教えて頂きました。

元々、子育てに自信がなかった私にとって、鈴木先生  
から教えて頂いたアドバイスにはただただ感懐ある  
ばかりでした。

そして、そのアドバイスを実践し、毎日積み重ねることで、  
日に日に息子も変わっていきました。

徐々に学校に行くことにも慣れ、段階を踏んで

車での送迎から、自分の足で集団登校ができるようになった。ようやく私も送迎から解放され、心が晴れ晴れとしました。

毎日登校を続けていくことで、息子自身もたくましくなり、自信がついたように感じます。

支援を受ける前は、学校を休むことに慣れており、「明日は行くから、今日は休ませて。」の言葉を使い、何度も学校を休ませてきました。息子の意識を変えさせることには苦労しましたが、今では体調不良以外で学校を休むこともありません。

何も言わなくても宿題、時間割をし、朝は自分で時計を見て、学校に向かいます。あんなに口うるさく急がしていたのに、今では安心して任せることができます。

学校での出来事も楽しそうに、得意気に話をしてくれ、今、息子は五年生になりました。

そして、小さな頃から続いていたかんしゃくや、不安や心配事をしつこく私にぶつけてくるような困った性格の向き合い方も教えて下さり、教えて頂いたとおりに対応することで、息子も物事の捉え方が変わり、だいぶ落ち着いたように感じます。あんなに酷かったかんしゃくも、今ではほとんど起こることはありません。支援を受けていたからこそ、学校へ行くことはもちろん、息子の困った性格の向き合い方まで

指導して頂き、とても感謝しています。  
支援を受けていたから、今頃どうなっていたらと  
考えると、きっと今のようにならなかつた生活はできて  
いなかったと思います。

今となっては、あなたにつらかった経験も、もう一度  
子育てを見つめ直し、良い経験だったと思えます。  
これからも様々な問題に直面して、悩むことが出て  
くると思いますが、鈴木先生から学んだことを胸に  
息子の成長を見守っていきたいと思います。

また、今春娘が小学校に進学するにあたり、娘の家庭  
ノートも添削して頂きました。娘は息子とはタイプが異なり、  
周囲をよく見ているので自分のことは進んでできるのですが、  
それでも私が先回りしてしまうことがあり、鈴木先生のアド  
バイスで任せられることはどんどん任せられるようになりま  
した。一年生になって、どんな風に成長していくのか  
楽しみです。

最後になりましたが、こんな風に思えるようになられたのも  
ペアレンツキャンプに出会えたおかげです。  
今後一人でも多くの親子が救われるよう願っています。  
ペアレンツキャンプの皆様の活躍をバトリお祈り申し  
上げます。本当にありがとうございました。

2022年1月